

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケア サポート		
事業所名	グループホーム 若葉園(南館)		
所在地	熊本県球磨郡多良木町多良木1,537番地		
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果市町村受理日	平成24年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成24年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

若葉園の周りには、えびすの湯があり、ブルートレイン、物産館、多目的グラウンド、公園があり環境には優しい雰囲気があり、利用者の皆さんはお天気のいい日の散歩を楽しみにされています。また、敷地内には小規模多機能ホーム「わかば園」があり、敬老会、施設間対抗の運動会などで交流会を深めています。小規模には放課後学童保育の施設が併設されています。午後には子供たちの声で利用者の心も癒されています。学童主催の夏祭りには保護者の方の参加で、GHの利用者の皆様も案内をもらったり、敬老会等、行事ごとに駆けつけてくれ高齢者の皆様とのふれあいを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者が穏やかな時間を過ごす事が出来る環境の中、職員はこれまでの経験や特技、持ち味を活かしながらホーム内でソフト・ハードの両面から入居者を支えるケアに取り組んでいる。それぞれの居室は家族の思いや職員のアイディアにより掲示物や工夫が施され、その方のこれまでが大切に保たれている事が窺える。又、入居者の健康を支える協力医との連携は日々の生活や外出支援にも繋がっている。管理者は今後も併設の小規模多機能型事業所をはじめ法人の持つ機能を活かし、地域の抱える介護福祉の問題に出来るよう常に模索している。グラウンドや温泉センター、物産館など多くの憩いの場を目の前にした立地を活かし、まずは地域への情報発信により今後の取り組みが展開されていく事に期待が持たれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の目立つところに理念を掲示し、職員のため環境を刺激しつつ介護サービスに対する意識を高めている。最近では、職員から理念を全員で作ってみたいの声が上がっています。	地域の中で過ごす事の意義や支援内容だけではなく人として大切な事項が盛り込まれた理念は、事業所内に掲示され、職員の意識付けや来訪者への啓発を行っている。又、運営推進会議の中でも説明を行う等、ホームに関わる人々の理解や共有に繋げている。	現理念を大切にしながらも、新理念の作成を職員間で検討したい意向が出されている。より身近なケアの規範となる新理念の作成に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、祭りに参加したり、地域ボランティア、学童の子供たちその保護者の方との交流もあり年々賑やかになっている。また、体験学習の受け入れもしており利用者の刺激となっています。	えびす祭りや郷土芸能祭など地域の祭りへの参加や継続されているグランドゴルフ大会を通じた交流が行なわれている。又、地域の一員として管理者が会合へ参加し、一人暮らし、老夫婦宅を訪問して介護相談に応じたりアドバイスを行う等、ホームに出来る地域貢献を日々模索している。	ホーム前の広場は地域の方々イベント会場や散歩、散策など常時活用されており。新たに掲示板等を設置する事によりホームの情報を発信し、更に地域の理解を深め今後の活動の機会が展開される事に期待が持たれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	若葉園杯のグラウンドゴルフ大会を年2回に増やし、各大会ごとに認知症のお話や、チラシを配布し興味を持って頂いています。また地域の会合にも参加させてもらい、お話をさせてもらっています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーは、行政、地域包括、区長、民生委員、家族代表、利用者代表と多彩で、全員の方の活発な意見が出ています。また、時間をもらい、感染症等の勉強会をしています。	定期的で開催されている会議は、地域交流室を会場とし、小規模多機能事業所と合同で開催されている。現況報告やそれぞれの立場からの意見が出され、身近なテーマをもとに勉強会を開催する等工夫された会議となっている。外部評価についても結果や今後の取り組み等について説明を行う等真摯な取り組みが窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政との連絡は密に取りあい、研修の紹介や流行性の疾病情報等頂いています。また、利用者の情報や相談など協力を頂いています。	管理者は日頃より相談や質問時に直接役所を訪れ、ホームの現況を伝えながらアドバイスや指導を受けている。今後も行政と連携しながら地域貢献や、入居者・家族の満足に繋がるホーム運営に知り組みたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳を第一に、身体拘束、虐待の勉強会を職員は下より、運営推進委員会の中でも行なっています。利用者の要望を優先している。	身体拘束・虐待に関するホーム内・外の研修参加により、職員は正しく拘束を理解し、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。スピーチロックについてもミーティングの中で共有を図り、管理者は入居者に“チョット待って”もらうような場合も、待ってもらう優先順位を決めてケアにあたるよう指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことは社内研修時に報告してもらい、虐待に対しての考えを忘れることなく丁寧なサービスに心がけている。また手のあざ等介助時にできる内出血についても介助の工夫も話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	只今、該当者の方はいませんが、契約時の説明は欠かさずおこない、研修会の参加をし社内ミーティングに話をしてしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要説明書の内容を十分に説明し、利用者や家族の質問等を受付し、余裕を持って契約をお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族とのコミュニケーションをとり、ちょっとした意見、質問にも耳を傾けている。利用者の担当職員に毎月一回、両者情報票を郵送しています。	入居者との普段の関わりやレクリエーション中など自然な形で要望を聞き取っている。又、家族とのコミュニケーションを図りながら、毎月の書類発送時に近況報告を同封する等家族の安心に繋げながら信頼関係に努めている。本人・家族の意見や要望を運営に活かせるよう、職員は常に意識を持ち勤務にあたっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回全体朝礼時に代表者は経営や運営の意向を伝え、朝礼終了前には質問要望等を聞いている。	全体朝礼やミーティングの中で意見や提案を確認している。今年度臭気対策としてトイレの換気扇を大型のものとしたり、浴室内の滑り止めマットを新しく交換し安全な入浴支援が拡大されている。	職員の意見や提案によって改善された事項や日々の取り組みは、積極的に家族に報告する事で、家族の安心や信頼関係にも繋がっていくと思われる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の個々の能力を出せるような環境をつくり、退職金制度の導入をし、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は下より、資格取得の費用(テキスト、旅費、受験料等)を全額会社負担とし、仕事に対するやる気と自信を持ちながら業務に付けるよう支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ではGH協議会があり2ヶ月に1回の研修会があり、12月には地区全体の忘年会が開催され、交流も盛んである。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の聞き取り、情報を参考に本人と家族の不安、要望等を聞き取り安心して生活できるように介護の統一を図りプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に利用者、家族の方に園内見学をしてもらい園での雰囲気を感じてもらっている。月一度は、利用者の日常生活、体調、行事等を担当者が書面にて家族に報告をしている。急な場合はその都度連絡をしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後は連絡を頻繁に取り合ったり、面会を促したり、利用者の不安がないよう、職員が話しかけをしたりし、一日でも早く落ち着き、慣れていただくように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に出来ること(掃除、洗濯干し、たたみ、調理野菜の下ごしらえ等)出来ることは職員と一緒にしたりします。自分の仕事としてされている方もいます。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事事には家族の方をご案内し、利用者、家族、職員の信頼関係を作り、お互い何でも言える環境を作っています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人家族の面会時には写真を撮り、双方にプリント渡し、再度の面会を促したり、出身地区にバスハイクや祭りの参加をしたりしています。親戚関係の集まりの時は、職員が付き添いで出かける支援をしている。	家族や知人等入居者にとって大切な関係が途切れないよう、訪れやすいホームの雰囲気にも努めている。又、個々の地域の祭りや親戚の集まる機会、友人のお悔やみ等職員も同行し馴染みの場所や関係を継続しながら安心に繋げている。神棚や敷地内に奉られた水神様に手を合わせる入居者や、雑巾や布巾縫いなどこれまでの生活を継続できる環境を作っている。	入居者や家族にとって馴染みの職員との関わりは安心や安定に繋がると思われる。今後も職員が持ち味を活かし、入居者の穏やかな日常を支援できる環境に期待したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で面倒を見たり、付き添いをお願いしたりしています。また、利用者間のトラブルの際には即間に入り最小限に収めるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、定期的に病院、施設等を訪問し、面会をしその都度家族へ連絡をしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントにより本人の希望や、意向を確認し、入居後も必要時にカンファレンスを実施し本人の意向把握するようにしている。意思の疎通が困難な場合は家族との意見交換や入居後の行動、表情などで判断をしている。	入居時や月一回のアセスメントをもとに、個々の担当職員を中心に日常の関わりの中で思いや意向を確認している。困難な方は表情や思いを推察しながら本人の意向に添えるように努めている。又、来訪時や電話等個々の状況に応じ家族との情報交換を行い本人の思いを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにて生活歴、嗜好、サービス利用の過程を詳しく聞き取りをし、関わりのある人にも生活パターンを再確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は毎日の生活支援の中で、観察記録、情報交換により把握している。本人に出来ることは声かけをし促すが、無理に作業やレクレーション等には誘わず、様子を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向を大切にユニットごとのカンファレンスを行い、本人、家族の意向に沿ったプランを全員で作成している。	本人・家族の意向や職員の意見や気づきを反映し、カンファレンスの中で見直しや変更も確認しながら状況に応じたプラン作成に努めている。計画作成担当者は家族に説明を行う場合専門用語は控え、わかりやすい言葉を心がけた承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践に当たり、本人の変化に直ぐに気づくような洞察力を養いながら、職員全員が記録による情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅希望者が家族の都合で送迎が出来ないときの送迎や、個々の買い物の支援を一緒にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、ボランティアの訪問を地域に呼びかけたり、非常時の対応について消防署、消防団、行政に仰いだり、共同訓練をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師とは常に密な連絡、連携が取れており定期的にホームの訪問や、緊急時には往診などの対応をして頂いている。	入居時にかかりつけ医の説明を行い本人、家族の意向を尊重しながら決定している。現在は、全入居者が協力医をかかりつけとしながら定期的な往診を受けている。担当医師と入居者の間には馴染みの関係が構築しており、医師は一人ひとりに声かけしながら対応し、専門医での受診内容についても把握している。利用者の担当職員は、入居者の健康状態や近況を手紙にし家族と共有しながらホームでの生活を支えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身状態、体調の変化を見逃さないように、気づいた情報を看護師に伝え、利用者が適切、迅速に対応できる支援をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の入院時には状況を医療機関に報告をしましたは、看護師、担当医に治療の状況、経過を教えてもらっている。また利用者に安心感を与えるために、職員が毎日面会に行き、声かけや、食事介助支援をしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期に向けて、契約時に出来ること出来ないことを家族に伝えている。またホームで出来る支援を家族、協力医、家族、職員と競技し、医師の指示のもとに支援をしている。必要時には医師より家族に説明してもらっている。職員には終末期の研修には特に参加するように指導をしている。	入居の時点で重度化した場合の支援についてホームに出来る内容を説明している。入居者の状態を見ながら家族や医師を交えて話し合い、最良の方法を検討している。家族の中には看取りまでをホームに委ねたいと考えている方も居られ、終末期支援の研修に職員が参加し、協力医と連携しながら入居者のホームでの生活を継続を支え今後予測される事態に備えている。	重度化や終末期に関わるホームの支援内容を明文化し「指針」として位置づける事で今後の対応の基本となると思われる。取り組みに期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署、協力医を招き講習を行っている。また緊急マニュアルを何時もすぐ見えるところに掲示している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練には自治会、消防署、消防団に参加を呼びかけている。小規模と合同での訓練ではAEDの訓練も行っている。	火災訓練時には事前に自治会に参加を呼びかけ、12月の訓練では地元消防団の講話を予定するなど地域との体制作りを進展させている。AEDの講習を看板を設置して地域へ広報し、小規模事業所と合同で実施している。北ユニットで水や食料品を備蓄し、年二回の総合点検により火元や配線など安全を確認して安心な生活に繋げている。	ゆとりある居室面積や全室掃き出し窓であること、数ヶ所の避難場所の確保などハード面の充実や、職員の防災管理者取得への取り組みなど防火に向けた体制作りを進めており、今後は火災以外の自然災害についての訓練の実施が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者、家族のプライバシー保護は十分に説明をし、利用者の方が傷つかれないような声掛けをしている。トイレ誘導時は特に羞恥心を損ねないように注意をしている。写真使用などは特に契約時に守秘義務について説明をし、必要最小限の使用の同意をとっている。	理念に入居者の尊厳をうたい、職員は一人ひとりを把握し理解して対応している。日常会話は馴染みある方言を使いながら入居者に分かりやすい言葉で表現している。入室時のノックの徹底やトイレや入浴介助時の入居者への配慮など継続した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすいような雰囲気づくりをし、要望や意見を話しやすいよう時間をかけて希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にし、声をかける時も無理に誘うこともなく、何をしたいのか希望を聞き、自分のペースで日々を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向により衣類の決定をしてもらったり、買い物の希望時も本人同行のうえ選んでもらい購入している。行事ごとに化粧を手伝ったり化粧品購入のお手伝いもしている。美容室の送迎もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に嗜好品調査を組み込んだり、利用者の好き嫌いにより、その人だけの別メニューを提供をしている。また下拵え等はよくおてつだいをしてもらっています。自分の食事が判断できない人にはお膳を使って区別をしている。下膳など出来ることは職員と一緒に手伝いをお願いしている。	主に配達食材を使い不足分を地域の商店で購入して、入居者の好みを取り入れた料理を提供している。下ごしらえやテーブル拭き、ランチョンマットの片付け、その日のメニューをボードに手書きするなど、入居者の食への関わりは自信や生活の張りにも繋がり、生き生きと参加されている。おはぎなどのおやつ作りや外出先での食事など、目先を変えた取り組みも実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じた形態で食事を提供をしている。食事の摂取量が少ない時は協力医に相談し高カロリー飲料などで対応をしている。水分摂取は利用者の好みに応じ提供しており、ゼリー等で対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを各自しているが、磨き残しがないか最後は職員がチェックをしている。義歯の洗浄も薬を使い、週2回ほどおこなう。歯科医師も往診にてチェックを行ってもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記録により、利用者の排泄パターンを把握し、適時に対応をしている。日中は基本的にトイレを使うこととし、腹部マッサージ等を施している	排泄の訴えない入居者へは間隔を把握し、声かけや誘導により日中はトイレでの排泄を基本として支援している。自立した方へは継続を図りながら記録に残している。布下着や排泄用品の組み合わせにより入居者の活動を妨げず、家族の負担軽減にも配慮している。夜間、使用したポータブルトイレは本体ごと日光消毒し衛生的に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて個々の状況を把握し、水分補給や適度の運動を促している。食事は刻みや、ヨーグルトなどを提供したり、協力医の支持も頂いている。勿論、腹部マッサージ等を施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ADLが低い方が多いので、入浴負担がないように日曜日は入浴を中止しています。また、菖蒲湯、柚湯など季節感を楽しんでもらっている。	個々に週三から四回の入浴を支援し、柚子やしょうぶ湯などの季節風呂は全入居者が楽しむよう数日に渡り準備している。掃除の行き届いた浴室から窓の自然を眺め浴槽や浴室内の滑り止めを新しく交換して安全対策に万全を期している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごしてもらっているが、昼寝で昼夜逆転を考え、ある程度で冷たいお茶や水やお話で気分転換を図っている。また、温度調整などで安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効果、副作用などは説明書を読み全体で把握し、服薬支援を行っている。また、薬の量も掛かりつけ医に見直しも頼み減らしてもらっている。副作用が見られたら直ぐに医師に報告し対策や変更をしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	この頃、自分に出来る事を進んで行ってもらっています。自然とできる人の役割が決まっています。また褒めたりお礼を言うことで満足してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	奥様が別の施設入所中で面会に職員が支援をしている。家族の方にも快く外出支援に協力をお願いしています。バスハイクも楽しみにされています。地域の催し物に参加すると地区の皆様がよく話かけて下さいます。	ホーム周りには町の所要施設が集中しており、祭りやイベントに歩いて出かけている。公園への散歩や物産館での買い物には天候や体調を見ながら出かけ、年二回のバスハイクや紅葉見学、入居者に馴染みのローカル列車に乗っての一日旅行など、家族や地元の協力を得て外出の機会を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小金額の所持は家族に理解してもらい何か必要な物を希望されると一緒に買い物に行きます。また、預かり金については出納帳にて管理をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用が出来ます。また、年賀状、手紙等を書かれたら、担当職員が別紙に利用者の伝えたい部分を補足し一緒に投函しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に安全清潔に努めている。散歩に出かけて時に採った草花をちょっと食卓に飾ったり、部屋には写真、ぬりえ等鮮やかにかざっています。また玄関には何時も家族の方が生花を持ってきて頂き活かしてもらっています。	日中の大半を過ごすリビングダイニングや廊下には、入居者の作品や絵の得意な職員による季節感ある飾りが施されている。天気の良い日は窓際に長机を出し日光浴を兼ねてお茶を楽しむなど工夫している。入居者の「ここはよか～！自分の家のごたる」の、言葉通り、自分の好きな場所で食後をゆっくりと過ごされる姿を確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で各部屋を訪問、会話をさせています。また壁の写真を眺められて話に花が咲いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた筆筒やドレッサーなど持ち込まれたり、仏壇やお位牌なども居室に置かれ安心感の醸成に繋がっています。また観葉植物等もあり落ち着いた部屋となっています。	広くゆとりある居室は家族の協力により持ち込みが多く、入居者も見慣れた品々に囲まれ安心して過ごされている。壁に貼られた“かぞくのやくそくごと”には、家族から入居者への温かいメッセージが記される等、共に居室作りに関わっている。掃除が行き届き周りの景色とあいまって心落ち着く空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の歩行運動、また徘徊等には本人には気付かれないように見守りをしています。部屋にはネームをはったり、洗面所、トイレ等にはプレートがつけています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケア サポート		
事業所名	グループホーム 若葉園(北館)		
所在地	熊本県球磨郡多良木町多良木1.537番地		
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果市町村受理日	平成24年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成24年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

若葉園の周りには、えびすの湯があり、ブルートレイン、物産館、多目的グラウンド、公園があり環境には優しい雰囲気があり、利用者の皆さんはお天気のいい日の散歩を楽しみにされています。また、敷地内には小規模多機能ホーム「わかば園」があり、敬老会、施設間対抗の運動会などで交流会を深めています。小規模には放課後学童保育の施設が併設されています。午後には子供たちの声で利用者の心も癒されています。学童主催の夏祭りには保護者の方の参加で、GHの利用者の皆様も案内をもらったり、敬老会等、行事ごとに駆けつけてくれ高齢者の皆様とのふれあいを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の目立つところに理念を掲示し、職員のため環境を刺激しつつ介護サービスに対する意識を高めている。最近では、職員から理念を全員で作ってみたいの声が上がっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、祭りに参加したり、地域ボランティア、学童の子供たちその保護者の方との交流もあり年々賑やかになっている。また、体験学習の受け入れもしており利用者の刺激となっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	若葉園杯のグラウンドゴルフ大会を年2回に増やし、各大会ごとに認知症のお話や、チラシを配布し興味を持って頂いています。また地域の会合にも参加させてもらい、お話をさせてもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーは、行政、地域包括、区長、民生委員、家族代表、利用者代表と多彩で、全員の方の活発な意見が出ています。また、時間をもらい、感染症等の勉強会をしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政との連絡は密に取りあい、研修の紹介や流行性の疾病情報等頂いています。また、利用者の情報や相談など協力を頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳を第一に、身体拘束、虐待の勉強会を職員は下より、運営推進委員会の中でも行なっています。利用者の要望を優先している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことは社内研修時に報告をしてもらい、虐待に対しての考えを忘れることなく丁寧なサービスに心がけている。また手のあざ等介助時にできる内出血についても介助の工夫も話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	只今、該当者の方はいませんが、契約時の説明は欠かさずおこない、研修会の参加をし社内ミーティングに話をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要説明書の内容を十分に説明し、利用者や家族の質問等を受付し、余裕を持って契約をお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族とのコミュニケーションをとり、ちょっとした意見、質問にも耳を傾けている。利用者の担当職員に毎月一回、両者情報票を郵送しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回全体朝礼時に代表者は経営委や運営の意向を伝え、朝礼終了前には質問要望等を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の個々の能力を出せるような環境をつくり、退職金制度の導入をし、職場環境の整備に勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は下より、資格取得の費用(テキスト、旅費、受験料等)を全額会社負担とし、仕事に対するやる気と自信を持ちながら業務に付けるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ではGH協議会があり2ヶ月に1回の研修会があり、12月には地区全体の忘年会が開催され、交流も盛んである。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の聞き取り、情報を参考に本人と家族の不安、要望等を聞き取り安心して生活できるように介護の統一を図りプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に利用者、家族の方に園内見学をしてもらい園での雰囲気を感じてもらっている。月一度は、利用者の日常生活、体調、行事等を担当者が書面にて家族に報告をしている。急な場合はその都度連絡をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後は連絡を頻繁に取り合ったり、面会を促したり、利用者の不安がないよう、職員が話しかけをしたりし、一日でも早く落ち着き、慣れていただくように支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に出ること(掃除、洗濯干し、たたみ、調理野菜の下ごしらえ等)出来ることは職員と一緒にしたりします。自分の仕事としてされている方もいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には家族の方をご案内し、利用者、家族、職員の信頼関係を作り、お互い何でも言える環境を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人家族の面会時には写真を撮り、双方にプリント渡し、再度の面会を促したり、出身地区にバスハイクや祭りの参加をしたりしています。親戚関係の集まりの時は、職員が付き添いで出かける支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で面倒を見たり、付き添いをお願いしたりしています。また、利用者間のトラブルの際には即間に入り最小限に収めるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、定期的に病院、施設等を訪問し、面会をしその都度家族へ連絡をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントにより本人の希望や、意向を確認し、入居後も必要時にカンファレンスを実施し本人の意向把握するようにしている。意思の疎通が困難な場合は家族との意見交換や入居後の行動、表情などで判断をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにて生活歴、嗜好、サービス利用の過程を詳しく聞き取りをし、関わりのある人にも生活パターンを再確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は毎日の生活支援の中で、観察記録、情報交換により把握している。本人に出来ることは声かけをし促すが、無理に作業やレクリエーション等には誘わず、様子を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向を大切にユニットごとのカンファレンスを行い、本人、家族の意向に沿ったプランを全員で作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践に当たり、本人の変化に直ぐに気づくような洞察力を養いながら、職員全員が記録による情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅希望者が家族の都合で送迎が出来ないときの送迎や、個々の買い物の支援と一緒にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、ボランティアの訪問を地域に呼びかけたり、非常時の対応について消防署、消防団、行政に仰いだり、共同訓練をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師とは常に密な連絡、連携が取れており定期的にホームの訪問や、緊急時には往診などの対応をして頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身状態、体調の変化を見逃さないように、気づいた情報を看護師に伝え、利用者が適切、迅速に対応できる支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の入院時には状況を医療機関に報告をしましたは、看護師、担当医に治療の状況、経過を教えてもらっている。また利用者に安心感を与えるために、職員が毎日面会に行き、声かけや、食事介助支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期に向けて、契約時に出来ること出来ないことを家族に伝えている。またホームで出来る支援を家族、協力医、家族、職員と競技し、医師の指示のもとに支援をしている。必要時には医師より家族に説明をしてもらっている。職員には終末期の研修には特に参加するように指導をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署、協力医を招き講習を行っている。また緊急マニュアルを何時もすぐ見えるところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練には自治会、消防署、消防団に参加を呼びかけている。小規模と合同での訓練ではAEDの訓練も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者、家族のプライバシー保護は十分に説明をし、利用者の方が傷つかれないような声掛けをしている。トイレ誘導時は特に羞恥心を損ねないように注意をしている。写真使用などは特に契約時に守秘義務について説明をし、必要最小限の使用の同意をとっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすいような雰囲気づくりをし、要望や意見を話しやすいよう時間をかけて希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にし、声をかける時も無理に誘うこともなく、何をしたいのか希望を聞き、自分のペースで日々を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援	本人の意向により衣類の決定をしてもらっ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	たり、買い物の希望時も本人同行のうえ選んでもらい購入している。行事ごとに化粧品を手伝ったり化粧品購入のお手伝いもしている。美容室の送迎もしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に嗜好品調査を組み込んだり、利用者の好き嫌いにより、その人だけの別メニューを提供をしている。また下拵えや、下膳など出来ることは職員と一緒に手伝いをお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じた形態で食事を提供をしている。食事の摂取量が少ない時は協力医に相談し高カロリー飲料などで対応をしている。水分摂取は利用者の好みに応じ提供したり、ゼリー等で対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを各自しているが、磨き残しが残らないか最後は職員がチェックをしている。義歯の洗浄も薬を使い、週2回ほどおこなう。歯科医師も往診にてチェックを行なってもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記録により、利用者の排泄パターンを把握し、適時に対応をしている。日中は基本的にトイレを使うこととし、腹部マッサージ等を施している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて個々の状況を把握し、水分補給や適度の運動を促している。食事は刻みや、ヨーグルトなどを提供したり、協力医の支持も頂いている。勿論、腹部マッサージ等を施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の体調に合わせて隔日に入浴してもらっている。また、菖蒲湯、柚湯など季節感を楽しんでもらっている。風呂嫌いの人は毎日声かけをし、その日その日の気分で入浴対応を準備している。		
46		○安眠や休息の支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごしてもらっているが、昼寝で昼夜逆転を考え、ある程度で冷たいお茶や水やお話で気分転換を図っている。また、温度調整などで安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効果、副作用などは説明書を読み全体で把握し、服薬支援を行っている。また、薬の量も掛かりつけ医に見直しも頼み減らしてもらっている。副作用が見られたら直ぐに医師に報告をし対策や変更をしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	この頃、自分に出来る事を進んで行ってもらっています。自然とできる人の役割が決まってきました。また褒めたりお礼を言うことで満足してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ散歩をし季節の風に吹かれてもらっています。また家族の方も快く外出支援に協力をお願いしています。バスハイクも楽しみにされています。地域の催し物に参加すると地区の皆様がよく話かけて下さいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小金額の所持は家族に理解してもらい何か必要な物を希望されると一緒に買い物に行きます。また、預かり金については出納帳にて管理をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用が出来ます。また、年賀状、手紙等を書かれたら、担当職員が別紙に利用者の伝えたい部分を補足し一緒に投函しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に安全清潔に努めている。散歩に出かけて時に採った草花をちょっと食卓に飾ったり、部屋には写真、ぬりえ等鮮やかにかざっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で各部屋を訪問、会話をされています。また壁の写真を眺められて話に花が咲いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた筆筒やドレッサーなど持ち込まれたり、仏壇やお位牌なども居室に置かれ安心感の醸成に繋がっています。また観葉植物等もあり落ち着いた部屋となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の歩行運動、また徘徊等には本人には気付かれないように見守りをしています。部屋にはネームをはったり、洗面所、トイレ等にはプレートがつけています。		